

1. 日時

2022年4月6日(水) 19:00～21:00

2. 場所

Zoom(Web会議システム)

3. 出席者

(敬称略順不同)

近藤、中村、山本、河村、鈴木(記) 以上5名

4. 議題

- (1) IIBAより相談の件
- (2) 当研究会の活動終了について
- (3) 今年度の研究会活動の進め方
- (4) 活動方針に沿った研究活動

5. 議事

(1) IIBAより相談の件

これまでIIBA内の研究会活動は会員が個別に開催してきたが、IIBAの会員も増加し、研究会に参加したいという問い合わせも受けるようになった。希望者があった場合、参加は可能か。

研究会の趣旨として参加資格は規定していないので、誰でも参加は問題ないと思っている。

今回エントリーレベルの資格であるECBAの日本語試験が開始される予定。BAの資格取得には学習時間の認定が必要だが、ECBAは支部活動も対象になる。この研究会の活動を認定対象としたいので、個人情報管理と出欠管理を確認したい。

個人情報管理について・・・鈴木が開催案内と議事録送付のため、氏名とメールアドレスを管理している。出欠管理について・・・2年間参加実績がないメンバー情報を削除するため、EXCELで出欠管理を実施している。ECBA取得のための活動時間を証明したい参加者の出欠を、IIBAに提示することは可能。

(2) 当研究会の活動終了について

当研究会立ち上げ時からずっと座長をお願いしていた近藤氏が、今年度いっぱいまで研究会活動から手を離したいとの希望を表明された。これまで近藤氏に指導いただく形でBABOKあるいはBA活動について学んできたため、座長がいない形での研究会継続は難しい。ひとまず今年度いっぱいでは何かの成果をまとめ、この形での研究会活動は一旦終了したい。

課題としては中村氏の活動が途中になるが、IIBAとしても、今年度は初心者向けに啓蒙活動を行いたいという方向性もあり、知識豊富なメンバーもいるため、中村氏からアプローチしていただくことで、今後も活動の支援は可能と考える。

(3) 今年度の研究会活動の進め方

中村氏がBABOKガイドを購入し、知識エリア「ビジネスアナリシスの計画とモニタリング」に沿って課題をまとめようとしたものの、ニーズは書けたが、ビジネスアナリシスアプローチまで書けなかった。BABOKの実務経験がないため、書籍を読みながらでは難しいとわかった。また、事例対象の企業で中村氏の活動がある程度認められ、年間を通してBABOKの社内教育実施が認められた。但し、外部講師を招聘する予算はないので、中村氏が研修内容をまとめなければならない。

まずはBABOKガイドに沿って社内の課題をまとめて行く件については、当研究会で議論しながら進めてゆくことで良いのではないかと。ただ、研修の内容まで、中村氏が一人でまとめるのは、体力的に厳しいと思われるので、IIBAに事例研究として価値を提供する代わりに、利用可能な研修素材があれば、提供をお願いしても良いのでは。

端的にBABOKの研修資料はさまざまな研修業者が作っているが、基本的に有償素材であることと、一般論的な内容になっているので、中村氏の会社にあった素材として活用するには、難しいと思われる。やはり今回の活動で、課題をまとめ、その成果をベースに研修資料を作成するのが良いのではないかと。IIBA内で、今回やろうとしている、事例企業へのBABOK適用と、そこからの研修資料作成という研究会の活動テーマを告知して、有識者や希望者に参加と情報提供を呼びかけても良い。

今年度は事例企業でのビジネスアナリシスの適用と教育資料策定で成果を出す活動を行ってゆく。

(4) 活動方針に沿った研究会活動

中村氏が前回研究会後に作成した資料を共有しながら、議論を進めた。ニーズをまとめたが、それについて、どうアプローチすれば良いかが導き出せていない。

3-1 ビジネスアナリシス・アプローチ

ニーズの背景にある本質的な課題は何かを特定し、それを解決する方法を検討することがアプローチになる。

例えばPMBOKの研修、ISOの取得、QMSの導入など、様々な施策を実施し続けても、プロジェクトのやり方が変わらなかったり、管理手法も表面的な対応だけで、本質的な理解が浸透しなかったりする状況の背景に、会社全体の体質が影響しているとしたら、それを変えるために、どうするのが良いのか、方法論を検討するのがアプローチになる。例え

ば管理職の認識を変えさせることが最も効果的だとした場合、一つはトップダウンで意識を変えさせるというアプローチがある。しかしながら日本の会社ではそういう方法を取ることがほとんどの場合難しい。部分的試行を重ねて成果を積み上げてゆく、アダプティブアプローチが効果的。

実はこれまでの活動の結果、中村氏がBABOKの研修を実施することや、マネジメントコックピットをパイロット的に導入することなどが決まっている。そういった活動がまさにアプローチとして該当する。

専門資格を有するエキスパートの育成が推進されているが、必ずしも現場で求められるスキルと一致しない。その資格基準を策定しているのが本社総務の人事であり、課題が画一的な人材育成のあり方なのであれば、実務的には中村氏の活動範囲外になるが、人事担当部門に対する働きかけも、アプローチとなる。

ビジネスアナリシスのアクティビティは、上記アプローチの具体的な実施項目を洗い出せば良い。例えばマネジメントコックピットの導入については、対象部門を決める、コックピットに可視化する項目を決める、など。

複雑さとリスクについては、実施の難しさやリスクを記述する。マネジメントコックピットの導入効果の評価では、ニーズに対する評価ではなく、評価者の満足度(使える、使えない)になってしまうリスクを考慮しておかなければならない。

3-2 ステークホルダー・エンゲージメント・アプローチ

ここは、プロジェクトマネジメントで作成した場合と同様に考えて作成して良いと思う。以前、作成したものをブラッシュアップしてゆく。

3-3 ガバナンス・アプローチ

ここも、プロジェクトマネジメントと同様の考え方で、何を誰が承認するのかを決めれば良い。但し、アダプティブアプローチの場合でも、上位に後押しをしてくれる存在が必要なので、ガバナンスの観点から、本社などに賛同者を作っておくビジネスアナリシス・アプローチも必要になる。

3-4 情報マネジメントアプローチ

ここでは、何をどう管理して行くかを記述する。

3章は常にモニタリングしているイメージなので、他の知識エリアの活動で変動要素があれば戻ってメンテナンスするような進め方で良いのではないか。ひとまず3章はこまめとし、次は戦略アナリシスの検討に進むのが良い。

全体に

次回以降、毎月一つの知識エリアを議論して行くことで、9月までには全ての知識エリアを網羅できる。進めるに従い、振り返りをする中で、これまでの知識エリアについても、見直しがかけられる。中村氏が一人で考えるより、こうして2時間議論することだけでも検討が進む。次回以降、IIBAで事例研究に興味がある方がいれば、ぜひ積極的に参加いただけると、さらに成果が期待できると思う。

6. 次回予定

(1) 日程

5月度BABOK研究会は、5月第一水曜日が連休に掛かっている。第2水曜日は他の研究会と日程が重なるため、[「調整さん」](#)で皆さんの希望を投票していただいて決定する。

(2) 場所

ZOOM会議室(URLなどは開催案内メールでお知らせします)

(3) 議題

「戦略アナリシス」を検討する

7. 成果物

(1) [中村氏作成の資料](#)

8. その他

中村氏が宿題を進める上で、良いアイデアや、意見がありましたら、Slackの「[#2022年度研究活動](#)」に遠慮なく意見をお願いいたします。

—以上—